

令和6年7月4日
(資 料 提 供)

(事 務 担 当) 所属名：農林総合研究センター 農業試験場 総合研究部 直 通：283-0073
--

令和6年度病害虫発生予報第4号について

今後 発生が予想される水稻、麦類、大豆、果樹、野菜の病害虫の発生量や防除上の注意事項について掲載します。

- 1 予報期間 7月中旬～8月上旬
 - 2 予報内容
- 水 稻

斑点米カメムシ類の発生は**多**と予想される。出穂後の好天により水田侵入が助長されるので、防除を徹底し、斑点米の発生防止に努める。【病害虫発生予察注意報第2号（令和6年7月4日付）参照】

セジロウンカ、フタオビコヤガの発生は**やや多**と予想される。今後の発生状況に留意するとともに、基幹防除を徹底する。

紋枯病の発生は**やや多**と予想される。発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

大 豆

ウコンノメイガの発生は**やや多**と予想される。7月6半旬に1茎あたり葉巻数が6個を超えた場合、直ちに防除する。

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

果 樹

カメムシ類の発生は**多**と予想される。発生を認めた場合は直ちに防除する。【病害虫発生予察注意報第1号（令和6年5月16日）参照】

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

野 菜

スイカつる枯病、ネギ黒斑病の発生は**やや多**と予想される。ほ場の排水に努め、降雨前後の防除を徹底する。

アブラムシ類、アザミウマ類の発生は**多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

オオタバコガの発生は**多**と予想される。若齢幼虫の防除を徹底するとともに、施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。

ネギハモグリバエの発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

コガネムシ類の発生は**やや多**と予想される。防除適期は7月下旬から8月上旬である。

※病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。

6～8月は農薬危害防止運動期間です。